海洋教育パイオニアスクールプログラム

Ocean Education Pioneer School Program

海洋教育パイオニアスクールプログラム レポート2024
VISION＆ACTION

OPRI 海洋政策研究所
SASAKAWA PEACE FOUNDATION
Supported by 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

心に海を抱く

地球表面の約7割を占める海は、人を含む全ての生物が生きていける空間として、地球を維持しています。しかし、人の及ぼす影響に対する海の包容力が限界を迎えようとしている今、私たち一人ひとりが、海そのものに関する知識と体験に基づき、自分たちと海との関係を絶えず意識し、海が抱える課題を自分ごととして捉え、地球規模の視野で主体的に海にかかわることができるようになる必要があります。

海に支えられた私たちの生活を守り未来に引き継いでいくための知識と体験を得る学びとして、海洋教育が求められているのです。

海洋教育パイオニアスクールプログラムは、学校や教育委員会等に対する支援を通じて、学校での海洋教育の面的な広がりと質的な向上を図ることを目的としています。

海洋教育の4つのキーワード

海洋教育は未来を支える学校教育のテーマです

人類は、海洋から多大な恩恵を受けるとともに、海洋環境に少なからぬ影響を与えており、海洋と人類の共生は国民的な重要課題となっています。

海洋教育は、海洋と人間の関係についての国民の理解を深めるとともに、海洋環境の保全を図りつつ国際的な理解に立った平和的かつ持続可能な海洋の開発と利用を可能とする知識、技能、思考力、判断力、表現力を有する人材の育成を目指しています。 この目的を達成するために、海洋教育は、海に親しみ、海を知り、海を守り、海を利用する学習を推進します。

「小学校における海洋教育の普及推進に関する提言」初等教育における海洋教育の普及推進に関する研究会, 2008

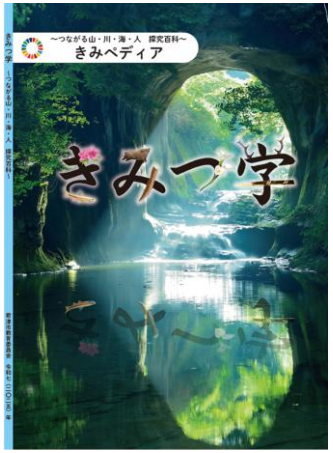
部門	採択校数	都道府県数
単元開発部門	99校	32都道府県
地域展開部門	91校(10地域)	10道府県
計	190校	32都道府県

2024年度は、単元開発部門において99校、地域展開部門において10地域91校、計190校の海に関する学習に対して助成を行いました。そのうち62校は、2024年度に初めて支援させていただいた学校です。2016～2024年度の合計では、延べ校数1,486校(実校数46都道府県578校)、約19万人の子どもたちの海の学びを支援しました。

地域展開部門においては、2023年度からの継続7地域(羅臼町・洋野町・鶴岡市・気仙沼市・君津市・阪南市・与論町)に加え、新たに3地域(江田島市・周防大島町・玄海町)を採択しました。

各学校の実施概要などは採択校一覧に掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

spf.org/pioneerschool/program/school.html?list_year=2024



本プログラム採択校をはじめ、多くの学校や教育委員会、社会教育施設や関連団体を訪問し、実際の活動の見学や実践に関するヒアリングを行いました。また、海洋や教育関連のイベントにも参加し、海外の学校視察や学会発表も行いました。

現地調査の目的として(1)採択校の活動状況の視察や成果・課題等のヒアリング、(2)その学校や地域についてより深く知り、海洋教育の意義や課題について分析する、(3)各学校や地域の教育事情をふまえた海洋教育推進の提案を行う、(4)海洋教育を実践している教職員のみなさんや関係団体の方々と直接交流しネットワークを作る、などがあります。

海の学びがもたらす様々な効果・課題について生の声をうかがい、海洋教育の現場に対する支援のより適した方法を検討していくとともに、より多くの方々とネットワークを広げることで、海洋教育の気運の盛り上がりと海洋教育“文化”の形成を進めていきたいと考えております。

学校		
宮城県	気仙沼市	気仙沼市立面瀬小学校
宮城県	気仙沼市	気仙沼市立鹿折小学校
山形県	酒田市	酒田市立浜中小学校
山形県	酒田市	酒田市立西荒瀬小学校
埼玉県	春日部市	春日部市立武里小学校
東京都	豊島区	豊島区立千登世橋中学校
東京都	豊島区	豊島区立西池袋中学校
東京都	東大和市	東大和市立第三中学校
神奈川県	鎌倉市	保育所のぞみ
福井県	小浜市	福井県立若狭高等学校
三重県	志摩市	三重県立水産高等学校
大阪府	岬町	大阪府立岬高等学校
山口県	周防大島町	周防大島町立東和小学校
山口県	周防大島町	周防大島町立浮島小学校
高知県	四万十市	四万十市立利岡小学校
高知県	宿毛市	宿毛市立大島小学校
高知県	宿毛市	宿毛市立咸陽小学校

教育委員会		
東京都	東大和市	東大和市教育委員会
長崎県	壱岐市	壱岐市教育委員会

社会教育施設		
岡山県	倉敷市	岡山県渋川青年の家
山口県	周防大島町	周防大島町地家室園地拠点施設
山口県	周防大島町	なぎさ水族館
大阪府	大阪市	海遊館
大阪府	岬町	大阪府立青少年海洋センター
長崎県	壱岐市	マリンハビタット壱岐
長崎県	壱岐市	壱岐イルカパーク＆リゾート
福井県	美浜町	美浜町レイクセンター
福井県	若狭町	福井県海浜自然センター
福岡県	福岡市	志賀島ビジターセンター
福岡県	唐津市	玄海海中展望塔

その他		
山口県	周防大島町	周防大島花木生産組合
山口県	周防大島町	アワサンゴを育むアベマキの森
静岡県	清水市	望星丸

イベント		
岩手県	盛岡市	生活科・総合的な学習教育研究協議会
宮城県	気仙沼市	海洋フォーラム in 鹿折
宮城県	気仙沼市	気仙沼ESD/RCE円卓会議2024
宮城県	気仙沼市	2024年度第2回 気仙沼市海洋教育推進委員会・連絡会
宮城県	気仙沼市	2024年度第3回 気仙沼市海洋教育推進委員会・連絡会
山形県	鶴岡市	第76回 山形県海洋教育研究協議会
山形県	鶴岡市	第2回 海洋教育発表会 in 鶴岡
新潟県	新潟市	日本生活科・総合的学習教育学会
東京都	渋谷区	いのちをつなぐ水と流域・地球市民フォーラム in Tokyo 2025
東京都	港区	全国「海の学び」フォーラム
神奈川県	横浜市	CNAC第19回全国フォーラムin横浜
神奈川県	横須賀市	日本船舶海洋工学会 海洋教育フォーラム
福井県	小浜市	対話研修会
三重県	志摩市	志摩市校長会
大阪府	泉大津市	泉大津市校長会
兵庫県	神戸市	令和6年度 令和の里海づくりモデル事業成果発表会
広島県	広島市	第57回 全国小学校理科研究協議会研究大会
広島県	尾道市	海洋文化遺産プロジェクト
広島県	呉市	海洋文化都市くれ海博2024
広島県	江田島市	江田島市教員研修会
山口県	周防大島町	令和6年度 周防大島町海洋教育合同発表会
山口県	周防大島町	2024年度第2回 周防大島町海洋教育推進協議会
山口県	周防大島町	海のめぐみいただきます展
高知県	大月町	第4回里海カンファレンス2024 in 大月
佐賀県	唐津市	さが唐津・玄海 海洋環境国際シンポジウムvol.1
佐賀県	玄海町	玄海町海洋教育サミット
佐賀県	玄海町	2024年度第1回 玄海町海洋教育推進協議会・ワーキンググループ合同会議
佐賀県	玄海町	2024年度第2回 玄海町海洋教育推進協議会
大分県	別府市	令和6年度 全国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会 九州大会
オンライン		第3回 ニッポン学びの海プラットフォーム会合
オンライン		山形県海洋教育研究会
オンライン		君津中学校生徒会合同発表会
オンライン		きみつSDGｓ×つながる山・川・海合同学習発表会
オンライン		熊本市立西原中学校 海洋環境講演会
台湾	基隆市	TMEC(Taiwan Marine Education Center) 2024海洋專業人才培育論壇
アメリカ	ボストン	NMEA(National Marine Educators Assciation) 2024 Annual Conference

2024年度 海洋教育研究会

本プログラム採択校や地域による様々な活動報告をもとに、議論や意見交換を通して、海洋教育の実践に向け更に理解を深めていただくことを目的とし、【海洋教育研究会】を毎年開催しています。海洋教育に興味・関心のある方々にさまざまな地域の実践を知っていただき、参加者同士のネットワーク構築となるきっかけのひとつとしても考えています。
2024年度は7月29(月)・30(火)日に志賀島(福岡)において、地域の方々を案内人として実際に地域素材の探究を行いながら、豊富な素材をいかにして海の学びへと活用できるかを考えるワークショップを中心として開催しました。また、実践校による活動報告も行いました。全国より40名以上の教職員や関係団体職員の皆さまにご参加いただき、海洋教育の重要性や地域資源の活用方法についての意見交換を通じ、ネットワークを広げていただくことができました。

spf.org/pioneerschool/news/20240908_OEC2024-report.html

海洋教育研究会サンセットトーク

本プログラム採択校の活動報告等を話題として、夕凪の1時間で、より気軽に意見や情報交換を行うことができる【海洋教育研究会サンセットトーク】を開催しています。参加者の実践の質向上に役立つような場、そして参加者同士のネットワークを広げるきっかけとなるような場を目指しています。
2024年度は計11夜開催し、延べ373名の参加登録をいただきました。毎夜、海洋教育への想いや裏話も含め、活発な議論がなされました。

spf.org/pioneerschool/event/OceanEducationConference.html#sst

回	開催日	話題提供者
第18夜	4/19	Universe Quest 代表　神田 みゆきさん
第19夜	5/31	羅臼町教育委員会 教育指導主幹　横澤 英三 さん
第20夜	6/14	国立大学法人鹿児島大学 南九州・南西諸島域 イノベーションセンター長 特任教授　藤枝 繁 さん
第21夜	7/19	鶴岡市教育委員会 学校教育課 指導主事　田中 翔志 さん
第22夜	8/30	笹川平和財団海洋政策研究所　小原 朋尚・嵩倉 美帆
第23夜	9/13	笹川平和財団海洋政策研究所　小熊 幸子・嵩倉 美帆
第24夜	10/25	熊本市西原中学校　松岡 珠美 さん
第25夜	11/29	鳥羽市立鳥羽小学校 教頭　廣脇 正人 さん
第26夜	12/13	一般社団法人 日本サステナブルシーフード協会 代表理事 鈴木 允 さん
第27夜	1/17	福岡市立勝馬小学校 校長　田中 展史 さん
第28夜	2/7	XR Meetup Kagoshima　鮫島 歩 さん・ 鳳凰高等学校　中村 太悟 さん

学校名	学年	タイトル
玄海みらい学園	5・6年生	玄海みらい学園の海洋教育実践発表
気仙沼市立 唐桑小学校	6年生	唐桑の観光地を盛り上げるために
		唐桑のお店を盛り上げるために
気仙沼市立 鹿折小学校	6年生	気仙沼の魅力発信 ～海の環境変化と共に向き合う私たち～
江田島市立 江田島小学校	5年生	知ろう！楽しもう！未来に残そう！ 自慢の海　ふるさとえたじま
江田島市立 中町小学校	6年生	江田島市の魅力を発信！ ～Catch Your Dream!オブジェ 「ココロ」制作☆プロジェクト～
鳥羽市立 鳥羽小学校	5年生	トロさわら、答志島漁港、鳥羽の海を守りたい
豊見城市立 とよみ小学校	4年生	漫湖の学習からゴミ問題を考える

全国海の学び発表交流会2024

【全国海の学び発表交流会】は、全国の幼児・児童・生徒のみなさんが取り組んでいる海の学びを発表し交流することができる場の創出を目的としています。
2024年度は2025年2月14日(金)にオンラインで開催しました。小学校7校から8題の発表をいただきました。日々の活動の共有や課題への解決策、今後取り組みたい活動など様々な発表がなされ、活発な意見交換が行われました。

学習まんが「海のひみつ」

学研「まんがでよくわかるシリーズ」のタイアップ企画を利用した、海洋教育普及を目的とする海洋に関する学習まんが「海のひみつ」を制作しました。

「一冊で海に関すること全てが分かるように」と、潮の満ち引きなど日ごろの海から観察される基本的な海洋の知識と共に、日本だけでなく世界的にも関心の高まっている高潮・津波防災、そして地球温暖化をはじめとする現代の海洋が抱える課題について、広く学び考えられるようなまんがを目指しました。国内に限らず、世界の子供たちにも手に取ってもらえるよう、国連IOC-UNESCOが中心となって普及が進められている海洋リテラシー（Ocean Literacy）や、国連海洋科学の10年（2021-2030年）の目指す成果として掲げられている7つの海（「きれいな海」「健全で回復力のある海」「予測できる海」「生産的な海」「安全な海」「万人に開かれた海」「夢のある魅力的な海」）が、互いに組み合わさり、ひとつながりの海として読み進められるよう、ストーリーが組み立てられています。

制作した書籍は、教材として全国約20,000の小学校、3,200の公立図書館、800の児童館に寄贈しました。また、デジタル版は下記の学研webサイトで、 2024年7月末から3年間無料公開されています。

・学研キッズネット

kids.gakken.co.jp/himitsu/library210/

・学研まんがひみつ文庫

gk-himitsu.gakken.jp/385/feac2eae30fd47668ea279bfbd60e0be

今年度はさらに、英語版を制作しました。まんがはそのままに、セリフ・まめちしき・コラムは全編英語に翻訳されています。海洋の専門用語が多いですが、子供向けにあえて簡単な単語にはせず、自然科学の英語も学べるようにしています。海外でも活用できるよう、デジタル版のみの提供としております。下記の「海のひみつ」専用のURLにて、2025年3月末から3年間無料でご利用いただけます。

gk-himitsu.gakken.jp/direct-view/c59a1caeee754b99a479cfa1cbf05b55

日本語版・英語版の双方共に、様々な場面での普及教材としてご活用いただければ幸いです。

海洋教育指導資料「理科の学びを海につなぐ」

海洋基本計画には、2025年までに全市町村で海洋教育の実施が目標として掲げられ、国民への海洋の知識の普及啓発促進、それに向けた教材等の充実が明記されています。しかし、小学校および中学校の学習指導要領においては、総則に「現代的な課題」の一つとして海洋が挙げられているものの、各教科の内容は地理や産業に偏っており、地球温暖化や海洋ごみ問題など世界的な課題を抱える海洋の現状を理解するために必要な科学的な記述が不足している状況が続いています。

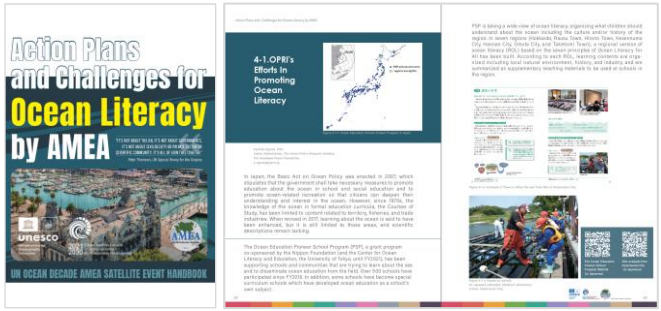
そこで、小学校理科の指導経験を持つ教員および専門家と大日本図書の協力の下、理科の学びを海に結び付けるための指導案をまとめた書籍を作成しています。3～6年生の理科から、海洋と関連性が強いと思われる11単元を選び、海水の性質、海と陸の水循環、光合成、食物連鎖・生態系の4テーマに分類して配置します。各単元について、海洋との関連を図った指導が考えられる時間を本時とした授業案、学習指導要領には記載されていない発展的な学習、子供たちの日常生活にまで視野を広げた海洋教育、そして世界で普及の進む海洋リテラシーと単元の学習内容に関連した考察をまとめています。理科の系統的な学びを海への理解に繋ぐ試みは、学校で海洋教育を教科学習の一部に取り入れるときの参考にしていただくだけでなく、子供たちが自然に触れて「なんでだろう」と思った時に学習した知識を活かして真理を考える、一つのきっかけにもなるのではと考えております。また、総合的な学習の時間において、海を題材に取り上げながら理科との関連性を検討するための参考資料としてお使いいただくことも期待しております。

本書は2025年7月21日（海の日）に刊行予定です。

アジア圏の海洋リテラシー普及に向けた実践と課題

2024年4月10日～12日にスペイン・バルセロナで開催された「国連海洋科学の10年会議」のサイドイベントにおいて、アジア海洋教育者学会（AMEA）の海洋リテラシー普及に向けた各国における実践事例をまとめたハンドブック「Action Plans and Challenges for Ocean Literacy by AMEA」が配布されました。

sites.google.com/view/asia-marine-ed/publication/unod-conference-hand-book



過去9年の活動概要と共に、AMEAに加入している9の国・地域の研究者等から寄せられた海洋教育事業の紹介が掲載されており、日本からは東京海洋大学の海街コミュニティ・スクール事業と、本プログラムが取り上げられました。

政府主導の教育政策に基づく海洋教育普及事業から、民間NPOの草の根的な活動まで、様々な内容と規模の取組みが紹介されていますが、いずれも各国・地域の文化や産業を色濃く反映しています。海に対するただ一つの考え方を教育課程にはめ込むのではなく、海と共に暮らしてきた歴史を含めた学びが重視されていることが分かります。

アジア圏で展開される海洋教育のように、海との向き合い方が異なっていても、一つの海を守るという共通の認識を持つことの重要性を、AMEAと共に世界に訴えていきたいと考えております。

国際会合への参加

（1）TMEC2024海洋専門家育成フォーラム

2024年8月20日に台湾の國立臺灣海洋大学主催で行われた、TMEC2024海洋専門家育成フォーラムで基調講演（表題：Ocean education for enhancing the symbiotic relationship between mankind and the ocean）を行い、日本の海洋教育のこれまでの経緯と課題、および本プログラムの成果を紹介しました。会場の参加者からは、日本政府の教育政策との関係性や活動資金源といった、事業の位置づけや継続性に高い関心を寄せられました。台湾の海洋教育が政府主導で進められており、本プログラムのように民間が学校教育に資することが少ないという事情が背景にあります。

その後、國立臺灣海洋大学の台湾海洋教育センター（TMEC）の張正杰教授の案内により、台湾北部の新北市の海洋教育基地学校を2校見学しました。野柳國民小學は、道を挟んで向かいに漁港、裏門は野柳地質公園に繋がっているという恵まれた立地で、地域の人々の協力を得ながら、身近な海を活用した海洋教育が展開されていました。石門実験國民中學は、学校脇の磯場の生物観察や、地域の人々とのカヌー体験や環境保全活動が全学年を通じて行われており、地域に根差した海の学びが展開されていました。

今後、米国のOcean Science Sequenceを用いた科学学習を中心とした海洋教育が展開される見込みです。

（2）米国海洋教育者ネットワーク（NMEA）

2024年7月にアメリカのボストン大学で開催された米国海洋教育者協会（NMEA）の年会合に現地参加しました。本プログラムの成果として、2022年度までに作成された11地域の副読本の内容を比較し、地球規模の海洋を理解するためには、子どもたちが関心を寄せやすいように、地域の特色を反映した海の捉え方、つまり地域版海洋リテラシーも重要であることを「Regional Ocean Literacy for Classes in Japan」と題してポスター発表しました。参加者からは、自治体レベルで副読本を作成し、学校間で共通の実践に取組んでいることが評価されました。

米国では教育制度が州ごとに異なりますが、NMEAを中心に国全体の海洋リテラシー教育や体験学習の発展に寄与するべく、研究者や教職員による活発な議論がなされていました。地域の自然環境を活用しながら、海洋課題を自分事として捉える工夫のこらした海の学びが展開されていました。学校単独の取組みだけではなく、水族館や海洋生物の保護施設と連携した取組みや、国の教育・研究機関の教育実践など、より専門的な知識・体験を伴った取組みが多くなされていました。

(1) 海の教科横断的な学びの成果と課題

本プログラム地域展開部門の参加校である気仙沼市立鹿折小学校で実施された、海の教科横断的な学びの成果および課題についての事例と、それらを他の学校・地域で実施する場合に想定される問題の考察を、日本生活科・総合的学習教育学会第33回全国大会(新潟大会)で発表しました。

> 嵩倉美帆・小熊幸子・小野寺裕史*（2024）「海とともに生きる未来を描く探究活動にみる成果と課題～宮城県気仙沼市立鹿折小学校の事例を通して～」日本生活科・総合的学習教育学会第33回全国大会(新潟大会) *気仙沼市立鹿折小学校

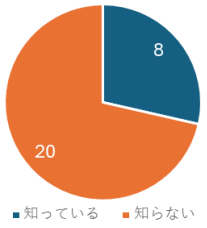
今後は、海洋教育特例校の果たしてきた役割とその成果、該当地区の周辺校や地域との連携のあり方を検討して参ります。

(2) 地域の海洋教育に対する認識

海洋基本計画の目指す「全市町村における海洋教育」とは、各自治体と海の位置に関係なく海の学びが行われることを意味します。地域・学校の連携が進む中、日常的に海に触れない地域でも海洋教育を実施するためには、地域の理解・協力が必要です。そこで、海に対する意識や海洋教育の認識度について、本プログラム単元開発部門の八王子市立横山中学校、および豊島区の中学校全8校にご協力いただき、海洋教育参加学年の保護者を対象にアンケート調査を行いました。

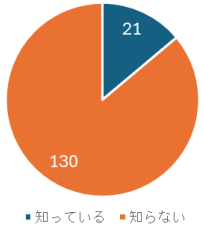
「海洋教育」という言葉を知る人は両校とも少数派ですが、横山中学校の方が割合が高めでした。同校は本プログラム参加3年目で、イカ解剖実験の補助ボランティアの研修に地域住民が意欲的に参加していることが反映されているかもしれません。授業内容は「海の環境」「海の生き物」「海ごみ問題」が強めに想像される傾向にありました。

【八王子市立横山中学校】
2年生（141名)保護者28名

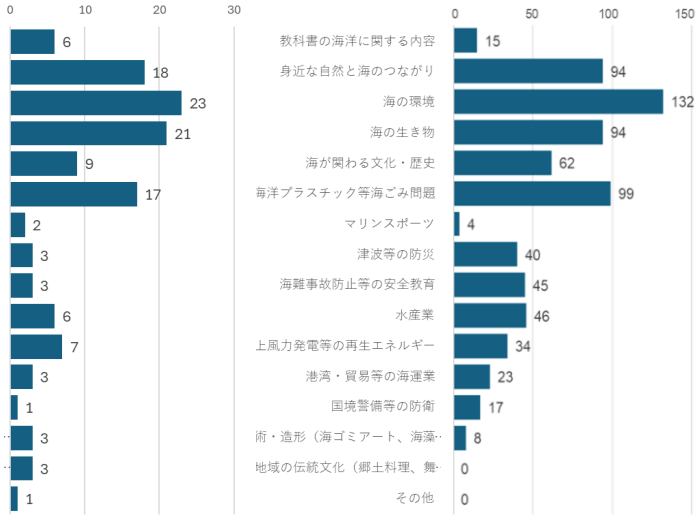


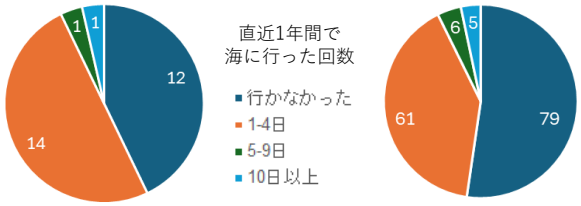
海洋教育という言葉を…

【豊島区中学校】
2年生(1,088名) 保護者151名

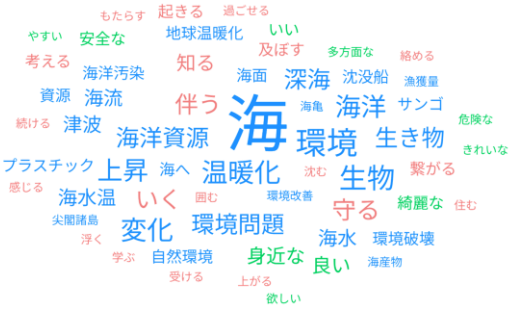


「海洋教育」という言葉から想像される学習内容

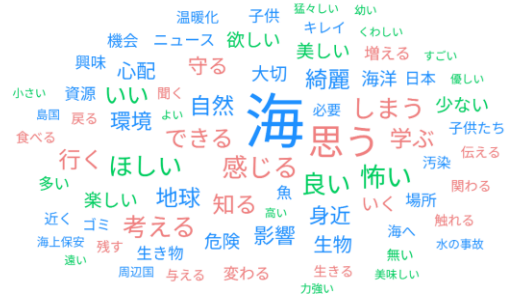




（豊島区のみ）海について知りたいこと



（豊島区のみ）海について思うこと、考えていること



自由記述で回答いただいた「海について知りたいこと」の言葉の出現頻度と「海洋教育」から想像される学習内容の傾向は近く、地球温暖化をはじめとする環境問題、サンゴ等の生き物の生態や保護の手段、という記述が多く見られました。知識とは別に「思いや考え」も尋ねたところ、海の環境保護への関心だけでなく、食との繋がり、海との距離感、怖さや畏怖、子供達への教育の必要性、といったことに向けられていました。保護者はじめ地域の方々から、このように海と海洋教育に関心を寄せていただき、学校との連携で子供達と一緒に学ぶ機会が作られれば、地域の海洋教育として定着できるのではないかと考えております。

本プログラムのwebサイト等において、プログラムの成果発信や各校・各地域の取り組みの周知、海洋教育の機運を高めることなどを目的として、様々な情報発信を行いました。

spf.org/pioneerschool

採択校・地域の情報、メディア掲載情報

2024年度は、採択校・地域の情報10件(受賞情報や広報誌・関係機関等に掲載された記事など、採択校や地域に関する情報)、メディア掲載情報33件(各種メディアに掲載された採択校・地域の活動等に関する記事)、を掲載しました。学校の社会関与を進めることも目的としています。

spf.org/pioneerschool/news/

イベント情報

2022年度は、本プログラム主催のイベント12件、その他の海洋教育に関するイベント8件の情報を掲載しました。各イベントには海洋政策研究所の研究員も関わっています。

spf.org/pioneerschool/event/

お役立ち情報

海洋教育に使える教材や参考文献など様々な情報を掲載しています。

spf.org/pioneerschool/useful/

海洋教育研究会2024 収録映像

公益財団法人笹川平和財団（SPF）の公式YouTubeチャンネル「spfnews」にて、2024年7月29・30日に志賀島(福岡)で開催した海洋教育研究会2024の収録映像を公開しました。2024年度の海洋教育研究会は、参加者自身がフィールドを巡りながら開催地の志賀島の海にちなんだ文化や歴史について知り、それらを海の学びへどのように発展させるかを体験することで、地域素材の活かし方を学ぶという、1泊2日での参加者主体型プログラムとして実施いたしました。本収録動画は、教育関係者の方々だけではなく、海の学びに関心をお持ちの地域・市民の皆さまにも、海洋教育の幅広さ、奥深さを感じていただくことを目的として製作しました。

spf.org/pioneerschool/news/20250303_OEC2024-movie.html

海洋教育に関するメールニュース

採択校やイベント参加者等を対象に、イベント情報や助成事業に関わるお知らせ、採択校・地域の情報、メディア掲載情報などを掲載したメールニュースを不定期で配信しています。2024年度は38通送信しました。

2024年度も海洋教育パイオニアスクールプログラムは全国の学校現場における海洋教育の普及と質的向上に向けて、多角的な取り組みを展開しました。計190校へ支援し、そのうち62校は新たに支援対象となった学校であり、地域展開部門においては新たに3地域に支援を開始させていただいたことにより、地域に根ざした実践のさらなる広がりと新たな教育モデルの創出が進みました。

また、教材開発やイベント開催、情報発信を通じて、海洋教育の普及と理解促進に向けた多様なアプローチが展開されました。特に学研まんが「海のひみつ」の刊行と全小学校への寄贈や、海洋教育研究会・サンセットトークなどの交流の場は、教育現場と地域社会の橋渡しとして機能しました。国際的にも、台湾や米国での発表・視察を通じて、日本の取り組みが他国の関心を集めるとともに、アジア圏における海洋リテラシーの共通課題が浮き彫りとなりました。

一方で、教科横断的な学びの実践や、都市部における海洋教育の浸透には依然として課題が残ります。保護者アンケートからは、海への関心や理解に地域差があることが明らかとなり、今後は地域の特性に応じたアプローチが求められます。

UNESCO-IOCによる「2025年までに海洋リテラシーを学校教育に組み込む」という社会的要請を背景にしつつ、本プログラムは引き続き、教材開発、実践事例の蓄積、国際連携を通じて、これからの海を担う人材を育む教育のあり方を模索していきます。

巻末言

2016年7月18日、2025年までに全ての市町村で海洋教育が実践されることを目指す旨が、内閣総理大臣メッセージとして発信された。今、まさにその目標年を迎えているが、皆さんの市区町村で海の学びの広まりを実感されているだろうか。海洋教育パイオニアスクールプログラムでは、実校数で46都道府県578校、全国の学校のおよそ1〜2%に対して海の学びの支援を行ってきた。学校数はほんの一部でも、そこから子供たちが海の学びの記憶と共に巣立ち、いずれ社会に貢献する時に海への思いが根底にあることを願っている。

先日フランスのパリで開かれたIOC-UNESCO総会で、「IOC人材育成戦略2023-2030のための実施計画案」が採択された。計画の6つの目標の1番目に「個人および組織レベルで育成された人材」が掲げられ、目標達成に向けた活動の一つに「基礎教育における海洋科学の統合」が挙げられた。その活動では、(1) 発達段階に合わせた教材や体験活動の開発、(2) 初等・中等教育のカリキュラムに海洋科学を導入、(3) 研修プログラムや教材共有プラットフォームを通じて教員を支援、そして (4) 学校だけでなく地域コミュニティ、ステークホルダーを海洋の啓発活動に参加させる、といったことが目的に設定されている。この4つの目的は、実は本プログラムの地域展開部門の取組みに通じている。

すべての人々が海洋に対する正しい認識を持つことを大きな目標として、世界中で様々な活動が進められている。日本がその動きの中心を為せるよう、当研究所として海洋人材の育成に尽力したい。

笹川平和財団・海洋政策研究所 所長　牧野 光琢

出典等

表紙　写真: 三重中学校・三重高等学校

p.1　写真: 竹富町立波照間小中学校

p.2　地図: 地理院地図(https://maps.gsi.go.jp/)にて作成
The bathymetric contours are derived from those contained within the GEBCO Digital Atlas, published by the BODC on behalf of IOC and IHO (2003) (https://www.gebco.net)
海上保安庁許可第292502号(水路業務法第25条に基づく類似刊行物)
Shoreline data is derived from: United States. National Imagery and Mapping Agency. "Vector Map Level 0 (VMAP0)." Bethesda, MD: Denver, CO: The Agency; USGS Information Services, 1997.
写真: (右下左上)与論町立茶花小学校　(右下右上)唐津市立東唐津小学校
(右下左下)「きみつ学 〜つながる山・川・海・人 探究百科〜きみペディア」
(右下右下)「海洋教育副読本 ふるさとげんかい」

p.3　写真: (左下)阪南市海洋教育教職員研修会

p.4　写真: (左下)2024年7月29・30日 2024年度 海洋教育研究会　(中上)2025年2月7日 海洋教育研究会サンセットトーク第28夜
(右下)2025年2月14日 全国海の学び発表交流会2024

p.5　画像: (中下)「海のひみつ」表紙

p.6　画像: (左中)Action Plans and Challenges for Ocean Literacy by AMEA
(https://sites.google.com/view/asia-marine-ed/publication/unod-conference-hand-book)
写真: (中下左)新北市萬里區野柳國民小學　(中下右)新北市立石門實驗國民中學
(右下)米国海洋教育者協会（NMEA）年会合

p.9　写真: 気仙沼市立津谷幼稚園

海洋教育パイオニアスクールプログラム
レポート2024 VISION＆ACTION

2025年7月14日

海洋教育パイオニアスクールプログラム事務局
https://www.spf.org/pioneerschool/

公益財団法人 笹川平和財団 海洋政策研究所
https://www.spf.org/